

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

奥越自然のいやし推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

大野市

3 地域再生計画の区域

大野市の区域の一部（阪谷地区）

4 地域再生計画の目標

[地域特性]

大野市は、福井県東部の奥越地域に位置し、石川県及び岐阜県に接した中山間地域で、人口は約3万8千人、全面積の87%が山林で占められた盆地・山岳地帯であり、四季を通じて気温の変化が激しく、県下有数の豪雪地帯である。

本市では、このような地理的条件を活かした農林業を基幹産業と位置づけ、平成11年7月に国が制定した「食料・農業・農村基本法」の基本理念にのっとり「自立と共生を目指して」をキーワードとする「おおの型 食・農業・農村ビジョン」を平成15年6月に策定し、本市における農業・農村の将来展望を明らかにしながら振興策を図ってきた。

地域再生の計画地域である阪谷地区は、北陸の小京都といわれる大野市街地の東部に広がる高原地帯に位置し、豊かな自然を有し、地域固有の食文化や気候、風土を活かした米、サトイモ、ソバ、ナス等の特産品に恵まれている。

また、農林水産省が平成20年度から実施している「有機農業総合支援対策事業」のモデル地域として、全国107団体の応募の中から、新潟を含む北陸4県で唯一、阪谷地区にある「越前おおの・阪谷有機の里づくり推進協議会」の事業計画が採択された。

本市もこの協議会に参画し、阪谷地区を起点として、高付加価値の農産物の生産・販売や消費者への普及活動等に積極的に取り組み、環境調和型農業及び農産物のブランド化を推進し、魅力ある大野の食の提供を推進していくこととしている。

施設の面においても、阪谷地区は、今回の計画の支援措置の対象としている「スターランドさかだに」をはじめ、四季を通じてアウトドアライフを満喫できるリゾートエリアとして多彩な施設がそろっている。

[地域の課題]

阪谷地区は、気象条件等により、食味の高い農産物や発色の良い花卉を産出する反面、中山間地特有の圃場管理の難しさ等を併せ持っている。

農業・農村を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、農家は農地をどのように利用・管理するかなどの農業面での課題とともに、地域づくりや村づくりなどについても、集落の範囲を超えての話し合いや新たな取り組みを実践する必要に迫られている。

また、観光産業においても、阪谷地区は、これまで冬期間の観光をスキーに頼っていたが、近年の暖冬や余暇の多様化により、スキー客がここ15年間のピークであった平成8年の約20パーセントにまで減少したことを主因に、観光入込客数は減少を続けており、地域経済を沈滞させている。

さらに、阪谷地区を含めた大野市を訪れる観光客の9割以上が日帰り客で、周辺のリゾート地への通過点としての色合いが濃く、今後、地域が一体となって観光誘客を促進していくことが重要な課題となっている。

[課題への対応]

本市においては、こうした情勢の変化に的確に対応するために、「農業」・「観光」・「都市との交流」のそれぞれについて、5年後の目標に向けた指針となるビジョンを、平成18年度から19年度にか

けて取りまとめた。

まず、農業分野においては、本市の特色ある農産物を「越前おおのブランド」として確立することを目指した、「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」を平成19年3月に策定した。

また、本市が誇る豊かな自然環境や水環境、それらに育まれる農林産物、更には、歴史、伝統文化、食文化などの優れた資源や素材の魅力を最大限に生かし、目指すべき新しい観光戦略の方向性を示した、「越前おおの観光戦略プラン」を平成19年3月にとりまとめた。

さらに、平成20年3月には、市民が地域に誇りを持って自然や農林業、日々の暮らしなどと結び付いた体験型交流を提供することで、来訪者が本市の豊かさを体感し、「越前おおの」ファンになっていくことを目指して「越前おおの型エコ・グリーンツーリズム推進プラン」を策定し、「越前おおの型エコ・グリーンツーリズム」の確立に向けた条件整備や施策の方向性、重点施策、実践プログラムを示した。

今回、中山間地域総合整備事業として阪谷地区に整備した活性化施設「スターランドさかだに」について、支援措置を活用し、エコ・グリーンツーリズムの拠点としての機能強化等を図ることで、地域の交流人口の拡大等を目指すものである。

[地域再生計画の目標]

今回の取組みにおいて、次に掲げる項目の達成を目標とする。

- (1) 環境に調和した農業の推進
- (2) 農産物の総ブランド化の推進
- (3) 魅力ある「おおのの食」の提供
- (4) 多様な担い手の確保と育成
- (5) 快適な農村形成と都市との交流
- (6) もてなしの心の醸成
- (7) 滞在型観光の推進
- (8) 水のみえるまちづくり
- (9) まるかじり「越前おおの」の提供
- (10) 魅力の発信と情報の収集

- (1 1) 子や孫が誇りを持って暮らせる故郷（ふるさと）の実現
- (1 2) 地域資源、当たり前の中にある本物の再発見
- (1 3) 自然・農林業・暮らしなどと結び付いた体験型交流の推進
- (1 4) 地域にやさしく、人にやさしい旅

【具体的な数値目標】

○ 活性化施設「スターランドさかだに」利用人口の増加

平成20年度（12月時点）

実績5,776人 ⇒ 平成23年度6,200人

※算出根拠：平成18年度実績5,333人から平成20年度実績への増加率8.3%を目標とするもの。

これまで当施設では、地域住民と協力し、イベントや農業体験活動など地域活性化を図るための各種活動に積極的に取り組んできた。

また、旧プログラムの認定を受け施設を転用し、飲食物の提供や農林産物の販売を始めた平成18年度からは利用者数が大きく伸び、特に、都市・農村交流人口は倍増し、認定前の平成15年度の数値を大きく上回る利用がある。これは、スキー客の減少等により阪谷地区の観光客が減少している中では特筆すべきことであり、当該施設が立地する集落である蓑道地区のみならず阪谷地区の活性化を担う中核施設のひとつとして、その機能を十分に発揮していると考えられる。

平成13年度	2,208人	地域活性化 912人 都市農村交流 1,296人
平成14年度	3,149人	地域活性化 750人 都市農村交流 2,399人
平成15年度	3,365人	地域活性化 1,831人 都市農村交流 1,534人
平成18年度（ 転用開始年度）	5,333人	地域活性化 2,450人 都市農村交流 2,883人 （うちそば処1,292人）
平成19年度	5,131人	地域活性化 2,005人 都市農村交流 3,126人 （うちそば処1,294人）

平成20年度 (12月時点)	5,776人	地域活性化 2,019人 都市農村交流 3,757人 (うちそば処1,159人)
-------------------	--------	--

※ 地域活性化：阪谷地区住民の利用者数

都市農村交流：阪谷地区以外の住民の利用者数

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

このような状況を踏まえ、今後は、農林業の持つ自然保護や環境保全機能にも着目しながら、本市独自の特産品の開発や付加価値の高い農林業を目指すとともに、都市との交流を核としたエコ・グリーンツーリズムなどの受け皿づくりが不可欠であると考えている。また、観光の視点からもその拠点を整備し、さらなる魅力の向上を図るとともに、県境を越えた近隣自治体との連携・交流を一層促進し、広域観光を実現することが強く望まれている。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

A1001 農林水産関係補助対象施設の有効活用

① 事業実施主体 大野市

② 事業内容

中山間地域総合整備事業として阪谷地区に整備した活性化施設「スターランドさかだに」について、国の地域再生の支援措置を受けて、都市と農村との交流や生涯学習、実証農園、体験農園等の事業を行い、エコ・グリーンツーリズムの拠点施設としての機能を強化するとともに、そばや郷土料理等の飲食提供、地域物産の施設内での直売を可能にすることにより、地域の交流人口の拡大や施設経営の改善を図ることとする。

また、計画地域では、今後、この活性化施設を核に周辺の地域資源との協力・連携を強化することで、地域全体の活性化を実現したい。

③ 事業スケジュール 添付書類 ii (奥越自然のいやし推進計画の工程表) のとおり

5-3 その他の事業

事業名	実施時期	事業の内容及び目的
どんど焼き及び左義長祭り	2月	雪上でのどんど焼き等を実施し、地域住民の交流を図る。
ヒマワリの種まき	春期	市内保育園児を招いてヒマワリの種をまき、自然に親しむ心を醸成する。
さかだに星のふるさと夏祭り	夏期	市街地を眺望する夜景及び星空の下でアトラクション、盆踊りを実施し、都市住民と地域住民の交流を図る。
収穫祭・新そば祭り	秋期	ジャガイモ、大根などの堀取り体験を行うと共に、それらを利用した風味豊かな新そばを提供することで、都市住民と地域住民の交流を図り、自然に親しむ心を醸成する。

6 計画期間

平成21年度から3年間

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

スターランドさかだに管理業務委託により、受託者であるスターランドさかだに振興会に毎月施設利用者の報告を求め、必要に応じて事業の見直しを図る。計画終了後、4に示す地域再生計画数値目標に照らし評価を行う。

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

なし